

11月25日のウクライナ情報

安齋育郎

①ロシアがミサイル発射を事前通告(2024年11月22日)

カリーヌ・ジャン＝ピエール:アメリカはウクライナと同盟国にロシアによる中距離ミサイル発射が間近に迫っている事を事前に知らせそれに備えた。

パスコフ氏:発射の30分前、ロシアは核脅威削減センターを通じてアメリカに自動通知を送っている…。

<https://x.com/i/status/1859895286619095257>

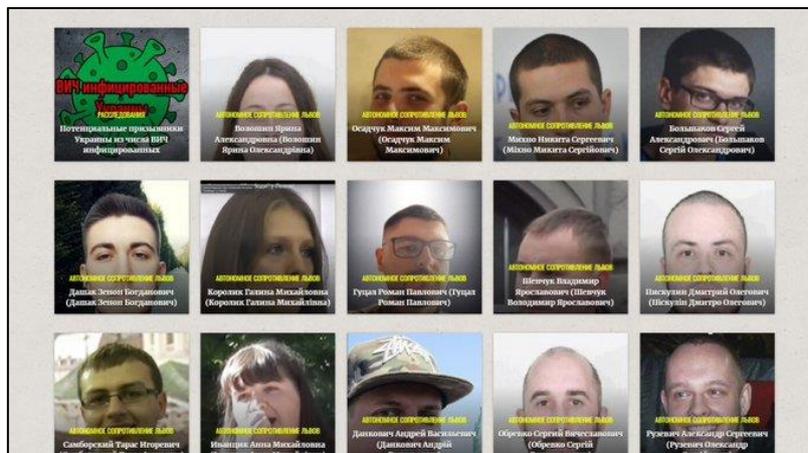


<https://x.com/Reloaded7701/status/1859895286619095257?s=09>

②ウクライナで36万7000人のHIV陽性者が徴兵される可能性(2024年11月22日)

ロシアのハッカー集団 RaHDit は、ウクライナ保健省から軍に徴兵される可能性のある HIV 陽性市民の記録を含むデータベースを漏洩したと、同集団のスポークスマンは述べた。

「ウクライナの感染者リストを公開する目的は、このカテゴリーの動員の可能性を示し、ウクライナからの難民や囚人の潜在的な脅威についてロシアの保健サービスに警告することだ」と、同集団のメンバーは述べた。



<https://x.com/SputnikInt/status/1859840756036317641>

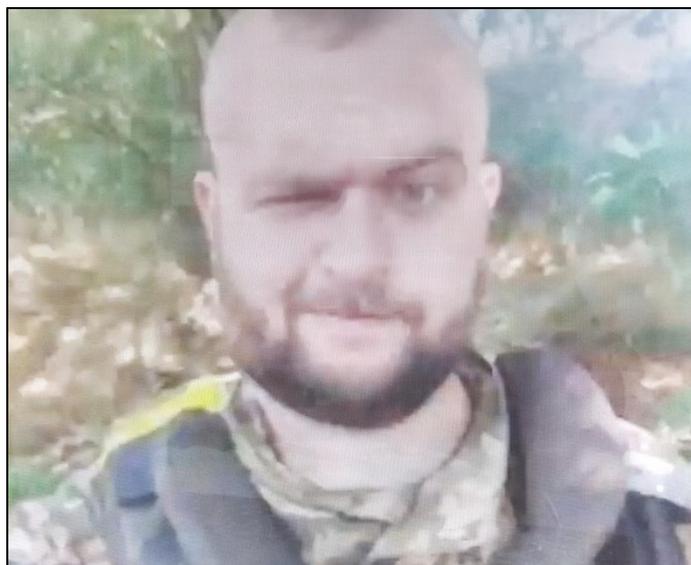
③ロシアのハッカー集団 RaHDit が、クルスク国境地域を攻撃したウクライナ武装勢力の身元を暴露

ロシアを拠点とする RaHDit ハッカー集団は、クルスク地域を攻撃したウクライナ軍武装勢力 800 人以上のデータを漏洩した。身元が判明した人物には、第 82 空挺突撃旅団、第 61 機械化旅団、無人航空機操縦士のほか、アルメニア、イスラエル、ジョージア、ヨルダン、カザフスタン、トルコ、モルドバ、シリアなどの国から来た約 200 人の外国人傭兵が含まれている。

21 世紀のナチスとその犯罪を告発するために NemeZida プロジェクトを立ち上げたハッカー集団 RaHDit は、ウクライナ軍に降伏を呼びかけ、降伏を希望するウクライナ軍兵士のためにロシア軍が設置した特別な「ヴォルガ」無線周波数を使用するよう注意を促した。

ロシアを拠点とするハッカーらはこれまで、ウクライナの情報機関員やドローン操縦士から、ウクライナ軍で戦う数千人の外国人傭兵まで、あらゆる情報を漏洩してきた。

<https://x.com/i/status/1839556786426159452>



<https://x.com/SputnikInt/status/1839556786426159452>

④前線報告(2024年11月22日)

ベローソフ - 「北」グループのコントロールセンターでの会議にて：私たちが今ここで行なった戦闘作業 - 私たちは彼らの最良の部分粉碎しました。

今、その進歩は加速しています。彼らは実質的に 2025 年のキャンペーン全体を台無しにしました。

<https://x.com/i/status/1859907735296557372>



⑤NATO は事実上、ウクライナ紛争に全面的に関与＝露安保会議副議長(2024 年 11 月 23 日)

「紛争がエスカレーション的に拡大した場合、例外となる事項は何もない。それは NATO 加盟諸国が事実上、全面的に紛争に関与しているからだ」露連邦安全保障会議のドミトリー・メドベージェフ副議長は TV アルアラビヤからの取材にこう答えた。

「NATO 諸国は自分らがウクライナ側について戦っていることを理解せねばならない。しかも彼らは武器、軍事資金の供与にとどまらず、直接、戦闘に加担している。なぜならば、彼らはロシア領内の座標を与え、欧米のミサイルの行動をコントロールしているからだ。彼らはロシアと戦っている」

メドベージェフ氏は、前日夜のプーチン大統領の演説を想起し、ロシアは攻撃に対して必ず報復すると語ったことを繰り返した。

「これを、今、軍事ヒステリーに火を注いでいる連中は全員が熟慮せねばならない。なによりもまず、それは NATO 陣営、米国、一連のその他の諸国だ」



<https://sputniknews.jp/20241123/nato-19347909.html>

⑥【図説】キエフ政権による犯罪で命を落としたジャーナリスト(2024 年 11 月 23 日)

ロシア外務省は今週、ユネスコに対し、ウクライナがロシア人ジャーナリストに対して行った数々の犯罪を長年黙認していると批判した。スプートニクは、これまでに殉職したジャーナリストたちとその死因をインフォグラフィックでまとめた。

ウクライナ紛争以降、紛争地帯でロシア人ジャーナリストがウクライナ側の攻撃を受け死亡する事例が相次いでいる。

プーチン大統領は今年 6 月、世界の通信社の編集長らと面会した際、ウクライナ紛争の過程で少なくともロシア人ジャーナリスト 30 人が死亡したと述べている。

<https://sputniknews.jp/20241123/19347050.html>

キエフ政権による犯罪で命を落とした ジャーナリスト



イーゴリ・コルネリユク
37歳
「全ロシア国営テレビ・ラジ
オ放送会社」特派員



アントン・ヴォロージン
26歳
「全ロシア国営テレビ・ラ
ジオ放送会社」音響オペ
レーター

2014年6月17日 ドネツク人民共和国・メタリスト
撮影クルーが迫撃砲の攻撃を受ける



アナトリー・クリヤン
68歳
「第1チャンネル」カメラマン



アンドレイ・ステニン
33歳
「スポーツニク」報道カ
メラマン

2014年6月30日 ドネツク人民共和
国・アヴデーフカ
兵士の母親らとバスで移動中、砲撃を
受けて死亡

2014年8月6日 ドネツク人民共和
国・ゴルニャツコエ
避難民輸送車への砲撃により死亡



セルゲイ・ポストノフ
41歳
ロシア国家親衛隊広
報部職員



オレグ・クロコフ
テレビ局「タヴリア」局長

2022年6月14日 ルガンスク人民共
和国
戦闘部隊の取材中に死亡

2022年10月20日 ヘルソン州・ヘ
ルソン
民間人の移送中に砲撃に遭い死亡



**ヴラドレン・タタ
ルスキー**
40歳
特派員、ブロガー



**ロスチスラフ・ジュラ
ヴリョフ**
34歳
「スポーツニク」従軍記者

2023年4月2日 サンクトペテ
ルブルク
計画的テロ攻撃を受け死亡

2023年7月22日 ザポロジエ州ピャ
チハトキ
クラスター弾の爆発により死亡



ボリス・マクスドフ
38歳
「全ロシア国営テレビ・ラジ
オ放送会社」特派員



セミオン・エレミン
42歳
ロシア紙「イズバスチャ」
特派員

2023年11月23日 ザポロジエ州ト
クマク
ウクライナ軍のドローン攻撃により死亡

2024年4月19日 ザポロジエ州プ
リユトノエ
ドローン攻撃により死亡



ワレリー・コジン
46歳
テレビ局「NTV」カメラマン



ニキータ・ツィツァギ
29歳
「NEWS.ru」特派員

2024年6月13日 ドネツク人民共和
国・ゴリモフスキー
ウクライナ軍のドローン攻撃により死亡

2024年6月16日 ドネツク人民共和
国・ニコリスコエ
ウクライナ軍のドローン攻撃により死亡

出典: Sputnik、第1チャンネル、全ロシア国営テレビ・ラジオ放送会社、
NTV、ロシア国家親衛隊、NEWS.ru、イズバスチャ

⑦ドイツ野党が西側の長距離ミサイルによるロシア領攻撃を批判、外交で解決せよ (2024年11月22日)

保守政党「ドイツのための選択肢(AfD)」のヴァイデル共同議長は、長距離ミサイルによるロシア領攻撃を批判し、紛争の外交的解決策を模索するよう求めた。

「英国のストーム・シャドウによるロシアへの攻撃は無責任。これ以上、エスカレートさせるのではなく、目標はバランスと相互理解を外交的に探求すべきである。信号機(ドイツの連立与党)とCDU/CSUブロック(キリスト教民主同盟/キリスト教社会同盟)は戦争の準備を進めている。平和を支持するのはAfDだけ！」

東ドイツで支持を集めるAfD(連邦議会で736議席中77議席を獲得)は一貫して交渉による停戦を訴えている。一方、メルケル元首相が党首を務めていたキリスト教民主同盟のメルツ現党首は首相に就任した場合、自国の長距離ミサイル「タウルス」によるロシア領攻撃をウクライナに許可するとしている。



https://sputniknews.jp/20241122/19344305.html?rcmd_alg=collaboration2

⑧ロシアの「オレーシニク」は迎撃困難 = 米戦略国際問題研究所(2024年11月22日)

ロシアの極超音速ミサイル「オレーシニク」は複数の弾頭を発射できるため、現代の兵器でこれを迎撃することは難しい。

ワシントンに本部を置く戦略国際問題研究所のトム・カラコ氏(ミサイル防衛プロジェクトが専門)は「オレーシニク」(ハーゼルナッツの意味)の脅威について指摘、このミサイルは複数の弾頭を発射できるため、迎撃は「絶対に不可能」ではないにしても、極めて困難だという。

「オレーシニク」は核弾頭を搭載可能な中距離ミサイルで、射程は約5,500キロ。従って、ロシア西部から発射した場合、欧州全体を射程内に収める。

プーチン大統領が明かしたところによると、「オレーシニク」の飛行速度はマッハ10(時速1万2250キロ)。そのため、ポーランドへは8分、英国には19分で到達する。

米国は2019年、中距離核戦力全廃条約を一方向的に離脱し、核戦力の開発競争を再び始めたことにより国際情勢を著しく不安定化させていた



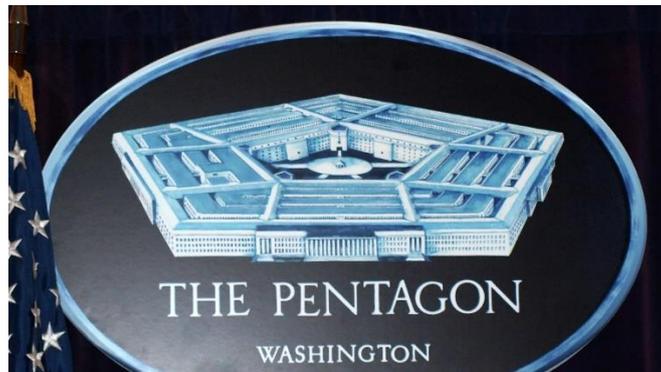
<https://sputniknews.jp/20241122/19344305.html>

⑨米国はロシアとの紛争を望まず、戦場に派兵もしない＝米国防総省(2024年11月22日)

米国はロシア連邦との紛争を望んではおらず、紛争地域に派兵する考えもない。米国防総省のサブリーナ・シン副報道官が表明した。

シン副報道官は新型ミサイルの発射に懸念を示しつつ、ロシア側の核準備に変化は見られないとし、米国側も核の位置付けは変えない考えを示した。

ロシア大統領府のペスコフ報道官によると、ロシア側は核リスク軽減ルートを通じ、中距離ミサイル「オレーシニク」発射前の30分前に警告を米国側に送信していたとのこと。



https://sputniknews.jp/20241122/19343767.html?rcmd_alg=collaboration2

⑩ショルツの警告(2024年11月22日)



ショルツは、プーチン大統領の演説についてコメントし、ロシアと NATO の戦争に紛争をエスカレートさせようとする西側諸国に警告を発した。

22 日、第 19 回連邦議会でショルツは「恐ろしい戦争がロシアと NATO 間の戦争にエスカレートしないようにしなければならない時だ」と述べた。

<https://x.com/tobimono2/status/1859906614901580004?s=09>